



特集
辞書指導と語彙指導



◎実践紹介◎——『ジーニアス英単語2200』

科学的に考えるポキャビル



磯邊真一

単語を覚えることがよほど好きでたまらないという人を除いて、誰しもが英単語を覚えることに苦勞した記憶があるのではないのでしょうか。ここでは「記憶」というメカニズムを科学的に考えながら、私が実践していることを含め、ポキャビルの学習法や指導法について考えていきたいと思います。

■モチベーションを高めるために

まず記憶について考える前に、生徒自身にモチベーションがなくては話になりません。そこで、時間のない生徒を除いて、英検や TOEIC などの検定試験を活用するよう勧めています。特に英検は、資格になるだけでなく、受験以外の身近な目標ができるということで、英語学習の大きなきっかけとなります。さらにこの試験は語彙分野があり、各級に応じた語彙数がなければ合格は困難なので、自分の目標とするレベルが明確で学習しやすいというメリットがあります。語彙だけではなくリーディングやリスニングのパートもあり、英語全体のスキルアップをするためのバランスがかなり良いのです。ポキャビルのそもそもの目的は英語力を高めることですから理にかなっていると言えるでしょう。英検を受けると語彙力を高めようという意欲が湧く人が多いようです。しかし、大学受験は他教科とのバランスも考えないといけないので、検定試験はできれば高校2年生までに活用し、英語学習習慣の基礎を確立させておく方がよいと考えています。

■右脳と左脳を使い分けた学習法

左脳は言語脳とも言われ、計算や暗記などを理論的に考える顕在意識脳で、主に学習をしているときに活躍する脳とされ、右脳と違って容量は小さく、ものを忘れることによってものを覚えるという特徴があります。一方、右脳は、感覚脳と言われ、芸術作品を見たり、壮大な風景を見たり、音楽を聴いたりするときに活発になる脳とされています。この右脳は、膨大な量の計算をしたり、感覚的にもものを記憶データとして取り込む潜在意識脳で、ここに取り入れられたデータは短期記憶というよりむしろ長期記憶としてストアされます。左脳だけでなくこの右脳を利用した学習方法により、覚えやすさを体感できる人も多いようです。

簡単な応用例を紹介しましょう。紙（ルーズリーフなど）と赤ペンを用意し、覚えたい語句などに黄色の蛍光ペンでハイライトします。すぐその上あるいは下（自分で決めた位置）に、赤で意味を書き込みます。この書き込むという作業では左脳を、蛍光色と赤色が視覚的に右脳を刺激し、未知の語句を映像としてインプットできるのです。これは右脳と左脳との両方を使った暗記法として効果があります。蛍光ペンは経験上、暗くなるようなものは使用しない方がよいでしょう。次にルーズリーフやノートを用い自分だけの単語帳を作成し、それを読む、書く、見るなどして覚えることで、長文を読んだ後の内容とのリンクにより記憶の相乗効果が期待できます。受験に関しては、これに加え単語集を用いてポキャビルさせるようにしています。

■短期記憶と長期記憶の利用

認知心理学の分野において、人間には短期記憶と長期記憶があり、試験が終わった後にすっかり忘れてしまう記憶が短期記憶で、小さい頃の記憶が今でもしっかり残っているとといった類の記憶が長期記憶だと考えていただければよいでしょう。長期記憶は膨大な量を長期的に記憶でき、受験に利用しない手はありません。例えば小テストがあるので単語を20個覚えなさいといけなさいというときには、すぐさま短期記憶として脳にデータがストアされます。語呂合わせを作ったり、発音したり、書いて覚えたりすることも物理的的刺激となり、長期記憶となりやすいのです。さらに効果を高めるために睡眠をうまく利用することが大事であることも知られています。

長文を読み、その中から単語を拾い、自分なりにノートにまとめ、自分だけの単語帳を作ることにより、長期記憶と短期記憶とがともに活用され、受験に通用する「語彙力」が身に付くと考えています。短期記憶を長期記憶とするためには努力が必要ですが、音声をうまく利用することで右脳の長期記憶効果が期待できるでしょう。

■単語や熟語の理解

discombobulate や rambunctious などの単語はアメリカにいればどこかで出会うかもしれないレベルですが、受験には必要ないと言えるでしょう。また atavism などは GRE レベルの学習をする人を除いて英米圏にいても出会う確率は低く、時間が限られている受験生には覚える必要はないように思えます。しかし、revitalize や vivisection などの単語は形態素 (morpheme) から意味を推測することで、また step on the gas や pull up stakes や hang by a single thread などの表現はその由来を考えることで語感が養われますので、そうするように習慣づけて語彙習得に役立てさせるようにしています。

語感を養うとともに、忘れてはならないのが、

単語集の活用です。単語集を選ぶ観点はさまざまですが、入試に合格するというのが目的である以上、収録語数の少なすぎるものを選ぶことは良い選択だとはいえません。多少単語数が多くても省略すればすむわけですから、ある程度幅広いレベルの生徒を許容できるものを選ぶことが学校にとって一番のメリットなのではないでしょうか。

単語集の単独利用ではなく、長文読解と並行し、繰り返し学習することにより、短期記憶は長期記憶に変化し、効果的ですので、1年ないしは2年かけて使用するようにしています。

■『ジーニアス英単語2200』の長所

『ジーニアス英単語2200』は数ある単語集の中でも、計画的に使用すればかなり効果が期待できるものだと思います。まず、単語集の中では収録語数が比較的多いということ。前の『ジーニアス英単語2500』の時は、後半の「難単語」にある語が京大の下線部和訳問題に出題されていました。これは、この単語集の語彙数がそれだけ広く入試出題語をカバーしていることを物語っています。このように上級の大学を受験するときにも有効であるだけでなく、改訂された『ジーニアス英単語2200』ではセンター試験レベルの語彙に関してはこれまでの試験問題から用例を拾っており、センター試験にも役立ちます。

学校採用の場合は、小テスト作成用ソフトを利用することができます。このソフトで学習時期、レベルに合わせた確認テストを作成し、毎回の授業で実施することで、生徒に普段の学習習慣を身につけさせることもできます。高校3年生からでも対応できますが、できれば高校2年生あたりから利用し、高校3年生でもう一度確認することができます。この『ジーニアス英単語2200』のよさを十分に引き出すことができ、余裕を持って受験に臨むことができると考えています。

(いそべ しんいち・清風南海高等学校常勤講師)